

問1 縄文時代の遺跡から数多く出土する、主に女性をかたどったとされる土製の像を何と呼びますか。自然の豊かな実りや、病気・けがの回復を願うまじないの儀式に使われたと考えられているものを選びなさい。 (2023年 徳島県公立入試 類似)

1. 土偶
2. 石包丁
3. 埴輪
4. 銅鐸

問2 青森県にある三内丸山遺跡をはじめ、日本各地の縄文時代の遺跡から見つかる「土偶」について、その製作背景や当時の生活の様子を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2023年 香川県公立入試 類似)

1. 王や豪族といった有力者が現れ、巨大な前方後円墳が築かれた際に、死者を弔うために作られた。
2. 大陸から伝わった仏教の教えが広まり、寺院の本尊として拝むために精巧に作られた。
3. 本格的な稲作が広まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や金属器が普及する中で、魔除けとして作られた。
4. 縄文土器が作られ、狩猟や採集による定住生活が行われる中で、食物の豊作や多産を祈るために作られた。

問3 青森県に位置する縄文時代最大級の集落跡についての記述です。この遺跡では、直径約1メートルもの栗の木の柱を用いた巨大な掘立柱建物跡や、当時の人々が居住した大型のたて穴住居跡が数多く発見されています。この遺跡の名称として正しいものを選びなさい。 (2024年 福島県公立入試 類似)

1. 岩宿遺跡
2. 登呂遺跡
3. 吉野ヶ里遺跡
4. 三内丸山遺跡

問4 縄文時代の遺跡に関する調査報告において、「集落の近くから丸木舟が発見されたこと」と「大規模な貝塚が形成されていたこと」が同時に示される場合があります。これらの事実から導き出される、当時の人々の生活背景として最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 大分県公立入試 類似)

1. 集落間の争いが激化したため、外敵の侵入を防ぐ目的で集落の周囲に堀を巡らせた。
2. 大陸との公的な交易を行うために、大型の船を建造して組織的な外交を行っていた。
3. 稲作が普及したことで定住が進み、余った食料を貯蔵するために大規模な施設を作った。
4. 海や川の資源を積極的に利用しており、漁労が生活を支える重要な手段であった。

問5 縄文時代につくられた素焼きの人形で、豊かな収穫や病気の回復、魔除けなどを祈るために用いられたとされる遺物を何といいますか。 (2026年 熊本県公立入試 類似)

1. 埴輪
2. 石包丁
3. 銅鐸
4. 土偶

問6 縄文時代の人々が製作した「土偶」について、その特徴や目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2023年 徳島県公立入試 類似)

1. 大陸から伝わった稲作技術とともに、収穫した稲の穂を摘み取るための道具として広まった。
2. 亡くなった有力者の権力を示すために、巨大な墓の周囲に並べる装飾として作られた。
3. 安産や豊作を祈るまじない、あるいは病気の治癒を願う儀式の道具として用いられた。
4. 武士が戦場に赴く際、勝利を祈願して寺社に奉納するための供え物として作られた。

問7 青森県にある三内丸山遺跡の特徴を説明した新聞記事において、この遺跡が「縄文時代の生活観を大きく変えた」とされる理由として、当時の人々の暮らしの様子を正しく説明しているものはどれか。 (2025年 北海道公立入試 類似)

1. 打製石器を用いてナウマン象やヘラジカなどの大型動物を追いながら、移動生活を繰り返していた。
2. 大型掘立柱建物跡や多数の竪穴住居が見つかり、長期間にわたる大規模な定住生活が行われていた。
3. 青銅器や鉄器などの金属器が普及し、身分の差が生まれるとともに大規模なクニ同士の争いが起きた。
4. 本格的な稲作が始まり、食料を蓄えるための高床倉庫や、周囲を堀で囲んだ環濠集落が形成された。

問8 縄文時代には、重く割れやすい土器や土偶の制作、長期間の生活痕跡である貝塚の形成といった文化がみられます。これらの文化が形成された背景となる当時の人々の生活様式について、最も適切な説明を選びなさい。 (2026年 熊本県公立入試 類似)

1. 大型の野獣を狩猟するため、獲物を追って各地を移動しながら暮らしていた。
2. 本格的な水稻耕作を行い、大規模な環濠集落をつくって暮らしていた。
3. 竪穴住居などを拠点とし、一定の場所に定住して暮らすようになった。
4. 支配者の権力を示すために、巨大な古墳を造営して周辺で暮らしていた。

問9 日本の古代文化における「土偶」と「はにわ」の違いについて、時代背景と目的の観点から説明したものとして正しいものはどれですか。 (2026年 千葉県公立入試 類似)

1. 土偶は縄文時代に作られ、豊穡や魔除けを祈る呪術的な道具であったが、はにわは古墳時代に作られ、古墳を飾り立てるためのものであった。
2. 土偶は写実的な人物像として奈良時代に完成したが、はにわは縄文時代に土器の蓋として実用的に使われていた。
3. 土偶は権力者の死を悼むために古墳の内部に納められたが、はにわは狩猟の成功を願って森の入り口に置かれた。
4. 土偶は弥生時代に大陸から伝わった青銅器の一種であるが、はにわは飛鳥時代に仏教とともに伝わった石像の技術で作られた。

問10 北海道やその周辺地域において、樹皮を加工した繊維で織られた「アットゥシ」と呼ばれる伝統的な衣服や、独自のアイヌ語といった文化を継承してきた、法律によって日本の先住民族と明記されている人々を何と呼びますか。 (2026年 埼玉県公立入試 類似)

1. 大和民族
2. 渡来人
3. アイヌ民族
4. 琉球民族

問11 山形県の西ノ前遺跡から出土した、その美しい造形から「縄文の女神」として国宝に指定されている土製品についての説明として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 山形県公立入試 類似)

1. 縄文時代に作られた土偶の一種であり、当時の人々の祈りや願いが込められている。
2. 弥生時代の遺跡から見つかった土偶であり、大陸から伝わった稲作の成功を祈るために使われた。
3. 飛鳥時代の寺院跡から出土した仏像の原型であり、鎮護国家の思想を反映している。
4. 古墳時代の古墳の頂上付近から発見された埴輪であり、葬られた有力者の権威を示している。

問12 青森県に位置し、大型掘立柱建物跡などの発見によって縄文時代の定住生活の実態を明らかにした、日本最大級の集落跡は何か。 (2025年 北海道公立入試 類似)

1. 岩宿遺跡
2. 登呂遺跡
3. 吉野ヶ里遺跡
4. 三内丸山遺跡

問13 縄文時代に作られた土偶の中には、わざと体の一部を壊した状態で発見されるものがあります。このような特徴から推測される、土偶が作られた目的として最も適切なものはどれですか。 (2023年 香川県公立入試 類似)

1. 土器を作る技術が未熟であったため、焼成の過程で自然に壊れてしまうことを前提とした観賞用。
2. 大陸から伝わった高度な彫刻技術を模倣しようとして、失敗したものを廃棄した残骸。
3. 集落間の争いにおいて、倒した敵の姿を土偶に投影し、戦勝を記念して破壊する儀礼用。
4. 病気や怪我のある部分を壊すことで、その痛みを土偶に引き受けてもらおうとする身代わりの願い。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 土偶	縄文時代には、自然の恵みを祈ったり、病気やけがの回復を願ったりする儀式が行われていました。その際に使われたのが土偶であり、その多くが女性の姿を模していることから、生命の誕生や収穫への祈りが込められていたと推測されています。これに対し、埴輪は古墳時代の古墳の周囲に並べられたものであり、時代が異なります。
問2	答え 4 縄文土器が作られ、狩猟や採集による定住生活が行われる中で、食物の豊作や多産を祈るために作られた。	青森県の三内丸山遺跡は、縄文時代の大規模な集落跡として知られており、当時の生活を裏付ける多くの土器や土偶が出土しています。縄文時代の人々は、弓矢を用いた狩猟や木の実などの採集、漁労によって生活を営んでいました。土偶はこのような自然環境に依存した生活の中で、自然の恵みを祈り、豊かな収穫を願う信仰（呪術）の対象として重要な役割を果たしていました。
問3	答え 4 三内丸山遺跡	青森市にあるこの遺跡は、縄文時代中期から約1500年もの長期間にわたって継続した大規模な拠点集落です。それまでの縄文時代のイメージを大きく変える高度な建築技術や、計画的な集落の配置が確認されました。選択肢にある吉野ヶ里遺跡や登呂遺跡は弥生時代の代表的な遺跡であり、岩宿遺跡は旧石器時代の打製石器が発見されたことで知られています。
問4	答え 4 海や川の資源を積極的に利用しており、漁労が生活を支える重要な手段であった。	丸木舟は水上移動や漁具として使われ、貝塚には魚の骨や貝殻が大量に含まれていることから、当時の人々が自然の恵み（特に水産資源）を巧みに利用して生活していた背景がわかります。組織的な外交や本格的な稲作、集落を守るための堀（環濠集落）などは、主に弥生時代以降に顕著になる特徴です。
問5	答え 4 土偶	縄文時代につくられた素焼きの人形は土偶と呼ばれます。豊かな収穫や魔除けなどを祈る道具として用いられました。古墳時代につくられた埴輪や、弥生時代につくられた銅鐸との違いを押さえることが大切です。
問6	答え 3 安産や豊作を祈るまじない、あるいは病気の治癒を願う儀式的道具として用いられた。	土偶は、縄文時代の人々が自然界の精霊や生命力を崇める中で生まれた道具です。女性を模した形が多いことから、安産や豊作といった「産み出す力」への願いが込められていたと考えられており、祭祀や呪術（まじない）の道具として用いられました。他の選択肢にある「有力者の墓（古墳）の周囲に並べる」ものは古墳時代の埴輪を指します。
問7	答え 2 大型掘立柱建物跡や多数の竪穴住居が見つかり、長期間にわたる大規模な定住生活が行われていた。	三内丸山遺跡は、縄文時代の人々が長期間にわたって安定した定住生活を営んでいたことを証明した遺跡である。稲作や環濠集落、金属器の使用は弥生時代の特徴であり、吉野ヶ里遺跡などに代表される。また、大型動物を追う移動生活は旧石器時代の特徴であるため、縄文時代の定住生活という特徴を正確に捉える必要がある。
問8	答え 3 竪穴住居などを拠点とし、一定の場所に定住して暮らすようになった。	縄文時代には、竪穴住居をつくり一定の場所に定住する生活へと変化しました。移動しながらの生活では持ち運びが困難な土器や土偶の利用、長年のゴミ捨て場である貝塚の形成は、この定住生活と深く結びついています。
問9	答え 1 土偶は縄文時代に作られ、豊穰や魔除けを祈る呪術的な道具であったが、はにわは古墳時代に作られ、古墳を飾り立てるためのものであった。	縄文時代の土偶は、自然の恵みを祈る宗教的な役割を持っていました。これに対し、はにわは古墳時代の巨大な墳墓（古墳）に伴うもので、権力者の葬儀や古墳の区画を示すために立てられました。両者は見た目が似ている場合がありますが、狩猟採集中心の縄文時代と、大規模な身分差が生じた古墳時代という社会構造の違いを反映しています。
問10	答え 3 アイヌ民族	北海道とその周辺に独自の文化を築いてきた人々で、2019年に施行された「アイヌ施策推進法」により、初めて法的に「先住民族」と位置づけられました。樹皮を用いるアットゥシのほか、サケ漁や狩猟を中心とした生活様式を持ち、自然界のあらゆるものに魂が宿ると考える独自の精神文化を持っています。
問11	答え 1 縄文時代に作られた土偶の一種であり、当時の人々の祈りや願いが込められている。	「縄文の女神」という名称からも分かる通り、これは縄文時代に製作された土偶です。山形県舟形町の西ノ前遺跡から出土したこの土偶は、高さ45cmと日本最大級であり、当時の高い技術と精神文化を示しています。土偶はあくまで縄文時代の文化であり、古墳時代の埴輪とは製作された背景が明確に異なります。
問12	答え 4 三内丸山遺跡	青森県で発見された三内丸山遺跡は、縄文時代における最大級の集落跡であり、当時の人々が一定の場所に長期間とどまる「定住」を行っていたことを示す重要な遺跡である。佐賀県にある弥生時代の吉野ヶ里遺跡と混同されやすいが、時代背景と地域（青森）を区別して理解することが重要である。
問13	答え 4 病気や怪我のある部分を壊すことで、その痛みを土偶に引き受けてもらおうとする身代わりの願い。	土偶の多くが女性を模しているのは、新しい生命を生み出す女性の力が、大地の豊かな実りと結びつけられていたためと考えられています。また、出土する土偶の多くが破損している理由については、自分の病気や怪我の場所と同じ部分を壊すことで、回復を祈る「身代わり」としての呪術的な儀式に使われたという説が有力です。これは当時の人々にとって、土器作りや土偶作りが生活に密着した切実な信仰の一部であったことを示しています。